

春告草

第 85 号 平成 29 年 12 月 6 日 進路指導部発行

合格までのスケジュール

2 回目 センター受験票受け取りから入学手続きまで

6 年生にとっては最後の期末試験が終わりました。

いよいよ…、ですね。とにかく全力をあげて受験に向かうしかないのです。6 年間通ったこの学校を巣立ち、4 月からはまた新しい生活が始まります。大学生になった自分を想像して、今は乗り切りましょう。来週にはセンター受験票を皆さんに渡せるはずです。

「合格までのスケジュール 2 回目」は、受験～入学手続きまでについて書いていこうと思います。

●受験票で受験教科などをチェック

受験票を受け取ったら、まず志願票のコピーと記載事項を照合します。

住所、氏名、性別、生年月日はもちろんですが、登録した受験教科を確かめること。さらに「地理歴史、公民」「理科②」は登録科目数に間違いがないかどうかにもチェックします。万一、記載事項に誤りがある場合は、受験票を再発行してもらわないといけません。受験票を受け取った日のうちに、担任へ申し出てください。

受験票には、試験場名、受験番号などが記載されています。これも万一に備えてですが、各自でコピーや写真撮っておきます。受験票の紛失事故がないとも限らないので。昨年は、…… 秘密です。

受験票と写真票には各自で写真を貼り、署名欄にはボールペンで名前を記入しておきます。受験票はセンター試験だけでなく、国公立大個別試験や入学手続き時にも必要です。センター受験後も大事に保管しておきます。センター試験の試験会場を確認し、冬休み中の下見をしておきましょう。

●成績請求票は志望校への出願書類に貼付

「成績請求票」は国公立大個別試験や私大センター利用入試に出願する際、切り離して出願書類に張り付けて提出します。センター受験時には不要ですので、切り離して保管しておきます。

●私大出願

センター利用はセンター前に出願

年明け早々に私大の願書受付が始まります。受験計画は年内に立てます。入学意思のある大学を受験します。センター利用入試はセンター受験前に出願する大学が多いが、センター試験後に締め切り日が設定されている大学、方式もあります。さらには、私大の 3 月入試もあります。早く合格が出るに越したことはありませんが、何が起こるか分からないのが入試です。いろいろな場面、状況を考えておきましょう。

●試験会場の下見と当日の注意点

センター試験の会場は来週には分かるはずですから、大学が年末年始の休業期間に入る前に試験場を下見しておきたいものです。もちろん、試験に使う校舎や教室までは分かりませんが、試験場に一度足を踏み入れておくだけで、当日の緊張感は和らぐものです。また、当日(土日)と同じ時間帯で下見することで、交通機関の混雑状況の予測もできます。事故などで電車やバスがストップした場合に備え、試験場への複数のルートを確認しておくといいでしょう。前夜は早めに就寝し、当日は早めに起床しよう。

私大や国公立大の個別試験を受験する場合も同様です。入試当日の朝を想定して、自分の行動パターンをイメージしておくことが大切です。

センター試験まで 38 日
頑張れ三期生！

You'll never find a rainbow, if you're looking down.

下を向いていたら、虹を見つけることはできないよ。

Charlie Chaplin (英国人、コメディアン、映画監督)

●センター試験受験

開始時刻の30分前には試験会場に到着します。

遅刻した場合の入室は試験開始から20分以内に限って受験が認められていますが、リスニングだけは試験開始時刻(17時10分)までに入室しないと受験できません。

地歴公民と理科②を2科目受験する場合、遅刻者の試験室への入室限度(地歴公民は9時50分、理科②は15時50分)までに入室しないと、第2解答科目を含めて、その試験時間内は一切受験できません。また、第2解答科目を受験せずに途中退室することもできません。

当日の所持品など詳細については、次回に説明したいと思います。

●自己採点とデータリサーチ

国公立大の一般入試は、センター試験の成績と大学独自に行う個別試験の成績を総合して行われます。このため、センター試験で何点得点できたかは、国公立大個別試験出願に向けての極めて重要な資料となります。センター試験受験を終えた翌日は登校し「自己採点」を行います。そのデータは集計され、週末に「個人成績票」を返却します。データリサーチの結果いかんでは、志望を変更しなければいけない場合もあるかもしれません。個別試験出願に向けて、各担任や進路部の先生と相談しながら慎重に検討します。

センター試験実施後、インターネットでは当日夜から、新聞は翌日の朝刊で正解が発表されます。つまり、2日目が始まる前に1日目の答え合わせができてしまいます。しかし、結果にとらわれずに試験に集中するためにも、全ての科目の試験が終わるまで自己採点をしてはいけません。

●国公立大出願

出願期間は1月22日(月)～31日(水)で、前期、後期、中期とも同時期に出願します。自己採点の結果によっては、志望校を変更する場合もあるかも知れません。出願する可能性のある大学の願書を事前に取り寄せておくことが大切です。出願にあたっては、自己採点の結果や合格可能性を重視しつつ、

- ☐ センター試験・個別試験の配点ウェイト
- ☐ 日程別募集人員の振り分け状況
- ☐ 1月下旬から個別試験出願までの直前学習計画
- ☐ 志望校の個別試験問題の特徴・傾向
- ☐ 入学後の大学生活

なども考慮して、出願校を最終決定します。

自分のセンター試験での受験科目が出願校の指定条件(「地歴公民、理科②は、第1解答科目で判定か、高得点科目で判定か」や理科の選択パターン指定(A～D)など)を満たしているか、締切日必着か消印有効か、2段階選抜の有無、第2志望が認められているか、英語外部検定が利用可能か、などもチェックします。

●個別試験受験

私大一般入試は1月下旬から始まりますが、首都圏では2月中旬にピークを迎えます。大学によっては前期・後期、1期・2期などと募集期間を分けて試験を実施するところもあり、これは3月下旬まで続きます。当然、募集人数は少ないのですが、結果の出ていない受験生にとっては、最後のチャンスとなります。

国公立大の個別試験は、前期日程が2月25日から、公立大中期日程は3月8日以降、後期日程は3月12日以降に行われます。後期日程は卒業式後となりますが、最後まで粘ることが大切です。前にも書きましたが、最後まで頑張った人には受験の神様がポンッと背中を押してくれるものです。

センター試験受験の注意事項

●事前登録した受験パターンで受験する

地歴公民の登録した科目数は?→(1科目、2科目)

理科の受験パターンは?→(A、B、C、D)

●入室時刻の確認

地歴公民、理科②の2科目受験登録者は、試験時間の最初から受験する。1科目受験に変えた場合でも、変更していない限り、途中からの入室・受験は不可である。入室時刻を確かめておくように!

●第1解答科目と第2解答科目

地歴公民、理科②を2科目受験する場合、受験する順番を間違えると出願できなくなるケースもある。「第1解答科目の成績を利用する」「高得点の科目を利用する」など成績利用方法は大学により様々だ。志望校の指定以外の科目を第1解答科目として受験したために、出願できなくなるケースもある。

これ、特に重要で
受験の順番を間違えただけで
志望校に出願できなくなっ
てしまうかもしれません

●合格発表

大学構内に合格者の番号が掲示される合格発表は少なくなり、今は速達郵便や電子郵便で自宅に合否が通知されるようになりました。電話による「合否自動応答システム」やホームページ上に合格者番号一覧を掲載する大学も多いようです。

正規合格の他、追加合格を発表する大学がありますが、私大の場合は入学定員の厳格化で追加合格が出にくい状況もあります。根気強く待たなければなりません。

●学費納入と入学手続き

合格して入学手続きをする際、最も大切なのは学費の納入です。次のような方法があります。

□2段階方式…1次手続きで入学金を納め、2次手続きで前期分の授業料・諸会費など残額を払う。

□一括納入方式…一度に全額を納める。

□延納方式…希望者には入学手続き期間を延長する方式。(期限は国公立大後期日程の合格発表最終日以降であることが多い。)

平成30年度大学入試・受験スケジュール

12月	～13日 センター試験受験票等受領 ～15日 募集要項発表 15日 出願校リスト、調査書発行記録簿提出締切り(校内) ※募集要項・願書入手(各自)	私立大一般入試の合格発表・入学手続き ↓ 私立大一般入試(二月入試) ↓ 同(三月入試)
	私立大一般入試願書受付開始 9日 始業式(調査書受領) 13日 センター試験1日目 14日 センター試験2日目 15日 データリサーチ(自己採点・校内) 17日 センター試験平均点等中間発表 19日 データリサーチ結果返却 20,21日 センター試験追・再試験 22日～ 国公立大出願受付(～31日)	
2月	1日 センター試験平均点等最終発表 ～7日 国公立大(前期)第1段階選抜結果発表 ～20日 公立大(中期)第1段階選抜結果発表 25日～ 国公立大前期試験 ～28日 国公立大(後期)第1段階選抜結果発表	
3月	8日～ 公立大中期試験 10日 卒業式 12日～ 国公立大後期試験	

知的好奇心が刺激された2日間

大学模擬講義を終えて

大学模擬講義が行われた。これは毎年11月に4年生、5年生を対象に行われている進路行事で、今年は2日間にわたって延べ343名が参加した。放課後の90分間という長時間だったが、2日間参加した生徒もいて、熱心に聴講した様子が伺えた。当日の様子や、実施後の皆さんの感想を中心にレポートしたいと思います。

今年は講師の先生のご案内を代表生徒にお願いした。最初は緊張した面持ちで控室に先生をお迎えに来た生徒達も、講義が終わって先生をまた控室にお連れする時にはすっかりうちとけ、講義の感想や本校のことなど、和やかに話している様子がみられた。習いたてのラオス語で先生と会話をしながら戻ってくる姿もあり、皆さんが前向きに講義に取り組んだ様子が伝わってきた。

講義については、様々な映像や画像を取り入れ、飽きないペースで進められた先生、いかにも大学という格調高い講義を展開された先生、一方通行のお話だけでなくグループワークで生徒の活動や話し合いをふんだんに取り入れた講義、事前学習を出して講義への準備をさせ、当日は実験で生徒をわくわくさせてくれた先生、パソコンやプロジェクターなど一切使わず、チョークと黒板で勝負し、生徒を惹きつけた講義等々、どの分野の講義を取り上げても興味深く楽しいものだったようだ。皆さんも大変熱心に参加し、講義後も積極的に質問するなど講義内容が皆さんの知的好奇心を十分に刺激するものだったと評価している。講義後に提出された講義記録も全面細かい字でびっしり記入され、裏面や追加ページをつけたレポートもあり、鷹校生の深い好奇心やまっすぐな向学心を嬉しく感じた。



芸術系統は美大の先生による「感性のトレーニング」。これは先生自身が採集してきた砂をみているところ。高熱で焼いて微かな色合いを出すのだそうだ。



農学系統は「においの科学-有機化合物の立体構造」。事前に課題が出されていて、当日は講義と実験だった。皆さん熱心に取り組んでいましたね。

皆さんの感想のいくつかを紹介すると…

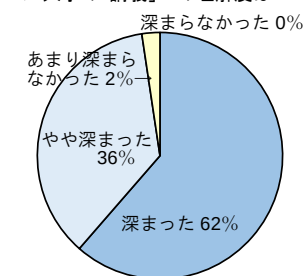
大学では深いところまでやっていてこの道を究められることを知った。90 分がとても短く感じた。もっと聴いていたかった。／ 自分の身近なことがテーマになった研究の話が聞けた。大学での研究は漠然とらえていたが具体的なイメージが持てた。／ 現在の学習とはかけ離れているが、三角関数など私たちの知識が応用されている面も多く、日々の学習の意味を強く感じた。／ BS(貸借対応書)や PL(損益計算書)表は見ただけではあまりわからなかったけれど、グラフにすることでどれだけ売り上げているかなどが可視化されてわかるようになるのは面白かった。経済は固いイメージがあったけれど、案外面白いしもっと深く知りたいと思った。／ 感性とは何かなど考えたこともなかった。美術作品に作った人の感性が込められているとしたら、次から作品を見る目が変わりそうだったと思った。／ 普段言葉にできない違和感が、根拠を元に明確に定義化されて、興味深く面白かった。純正日本人の私には新鮮な価値観が多く、かつ易しい内容だったので次タイプットされた。／ 外国語というと、とにかく文法を学ぶことや、ペラペラ話せるように練習するものと思っていましたが、意外とその地域に住む人の考え方や、歴史などの方が関係が深く、学んでいて楽しそうだと思いました。／ 歴史を学ぶのではなく、歴史の残し方を学ぶというのは今まで経験したことがなく、新鮮で面白かった。／ 教師から、ではなく教師を見る側の視点から「教師」という職業を見ていくというのがとても分かりやすく面白かった。教師という職業の難しさや魅力が改めて見えてきたし、「素の人柄」をどの程度出していくかというのはあらゆることに通じると思う。／ 法学部の学習では、みんなで考えるのが楽しかった。過失をどのように見つけ出すのかという点に興味を持った。実際の裁判での判決例などを多く取り入れて説明してもらえたので、自分の考えとその事件の判決の差を感じることができた。「法学部」は固いイメージがあったが、そんなこと一切ないと分かった。／ 大学ではただ難しいことをやるのではなく、何かを解決する研究がメインになってくるとわかった。そのための基礎を学ぶ大学1, 2, 3年と高校が大事なのだと思った。

アンケートの集計結果を見ても、ほとんどすべての人(98%)は「大学の講義への理解度が深まった」または「やや深まった」と答え、講義内容についても「興味を持て理解もできた」という人は93%に上った。「自分の興味のある分野ではなかったので、あまり参考にならなかった」という感想は毎回あるが少数派(3%)で、「今回の講義が大学での勉強を考える上で参考になったか？」について大多数の感想は、漠然としていた将来が具体的に見えた／視野が広がった／高校の授業とは違う視点で勉強できた／深まった などと肯定的な意見だった。

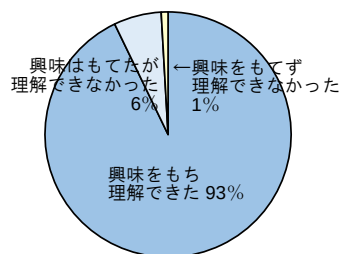
もっと講義の数を増やして欲しい／ 希望の講義が同じ日に重複して受けられなかった。別の日に2回目を開講して欲しい／ 外国語と文化、文学を同じ日に設定しないで欲しい などの指摘はあって当然と受け止めているが、何しろそれだけの時間と教室を確保できない現状がある。月2回の模擬講義、あるいは土曜日の5時間目にという建設的な意見もあった。今後いかに生徒が満足できるものにしていけるかが進路指導部としての課題と受け止めているが、全般的には皆さんが進路を考える上で、意義のある経験を積むことができたのではないだろうか。

今回自分の興味・関心のある分野がなかったという人も含めて、今後は自分から積極的に模擬授業や大学見学に出かけることを勧める。前号で電通大の大学祭に出かけて、研究室訪問をしたと書いたが、大学はいつでも高校生、中学生の訪問を歓迎している。研究室に行って大学生がどうしてこの研究テーマを選んだのかを聴いてみても良いだろう。自分が進路を考えていく際のヒントにもなるはずだ。大学模擬授業を今回限りのことにするのでなく、きっかけの一つとして進路研究を進めていく欲しい。

Q1大学の「講義」への理解度は？



Q2講義内容に興味もてたか？



Q3進路を考える上で参考になったか？

